

高等学校家庭科向け

2026 年度版

「事例から考えるリスクマネジメント」
授業展開案（50分）

1. 学習のねらい

- ・家庭生活に影響を及ぼすリスクの存在について知る
- ・リスクに備える方法として、公的保障・私的保障についてそれぞれの役割を学ぶ
- ・代表的な私的保障である、預貯金と民間保険について理解を深める

2. 授業の概要 (50分)

概要	学習内容とねらい
導入 (5分)	1. リスクへの備え ★人生には様々なリスクが潜在していることを知る。またリスクに備える方法について学ぶ
展開① (15分) 展開② (15分)	2. もしもリスクが起きてしまったら… ★リスクが起きてしまった事例について具体的にイメージし、「何に」「いくら」かかるか考えることにより、必要なお金を準備する手段について学ぶ 事例①「足の骨折で入院・手術したら」 事例②「もしも亡くなってしまったら」
展開③ (10分)	3. 自分で準備する「私的保障」 ★代表的な私的保障である預貯金と民間保険について、そのしくみと特徴を理解する
まとめ (5分)	4. まとめ ★授業のふりかえりをする

3. 授業形式

- ・パワーポイントと生徒用ワークシートを用いた講義形式

4. 準備物

- ・生徒用ワークシート (WS)
- ・パソコン (パワーポイントが使える環境のもの)
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・筆記用具 (生徒)

～ 各種参考資料のご紹介 ～

1-1. カードゲーム教材

「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」



1-2. 生徒用ワークブック

「君とみらいとライフプラン」



- ★授業時間が50分以上ある
- ★2コマ連続で授業を行いたい
- ★授業展開案の内容を補足したい

上記のような場合に、ぜひご活用ください！！

※教員用手引書・パワーポイントデータもご用意しております。

2. テーマ別「参考スライド集」



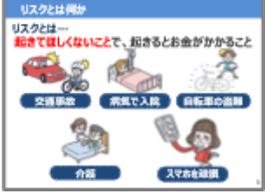
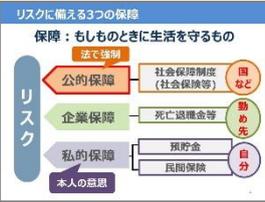
★授業内で補足資料としてご活用いただけるスライドをテーマ別にまとめた「参考スライド集(生命保険、社会保障制度、資産形成、働き方・キャリア、契約・消費者トラブルの計5種類)」もございます！

★本展開案に各テーマの使用推奨箇所と各スライド番号を掲載しています。

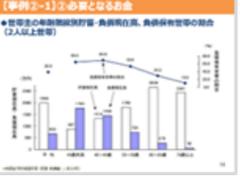
5. 授業展開（詳細）

【図記号の説明】

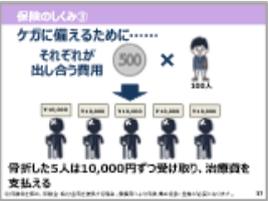
○：スライドタイトル 【WS】ワークシート掲載
 ★：ポイント ★★★：重要ポイント (Q.)：発問

時間	スライド	内容	備考	参考スライド
導入 5分	  	<h3>1. リスクへの備え</h3> <p>○リスクとは何か【WS】穴埋め</p> <p>★リスクとは何かを具体的に想像させ、発生すると経済的な損失を被ることを認識させる</p> <p>○リスクに備える3つの保障【WS】穴埋め</p> <p>★リスクに対する経済的な備えとして、公的保障、企業保障、私的保障（3つの保障）があることを説明する</p> <p>★2章の事例からリスクについて考える際に必要となる知識であることを生徒に伝える</p> <p>○社会保障制度の概要【WS】穴埋め</p> <p>★代表的な公的保障である社会保障制度が4つの柱からなることを説明する</p> <p>★社会保険の保障内容について簡単に説明する</p>	<p>(Q) 身の回りにどんなリスクがあるか問いかける</p> <p>・資金計画を立てても「予期せぬこと」が起きて計画が狂ってしまうかもしれないと展開する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【用語】</p> <p>・リスク：予想できない事態により経済的損失や不利益を被る可能性のこと</p> </div> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p>【用語】</p> <p>・保障：ある状態が損なわれないように守るもの（もしものときに生活を守るもの）</p> </div> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p>【用語】</p> <p>・社会保障制度：国民の安心や生活の安定を支えるセーフティネット</p> <p>・社会保障制度のうち、「リスクへの備え」としては社会保険が中心になる</p> <p>・詳細な説明は避け、社会保険から様々な保障を受けられることを伝えられればよい</p> </div>	

時間 展開 ① 15分	スライド	内容	備考	参考スライド																						
		<p>2. もしもリスクが起きてしまったら...</p> <p>事例①「足の骨折で入院・手術したら」</p> <p>★イラストを使ったアニメーションを通じてリスクが起きてしまった事例について具体的にイメージさせる</p>																								
																										
	<p>考えてみよう</p> <p>骨折をしたら・・・ どんなことにお金がかかるか考えてみよう</p> <p>入院、手術、薬にお金がかかるかな？入院している間の生活費も必要？10,000円くらいかな？</p>	<p>○考えてみよう【WS】穴埋め</p> <p>★足を骨折した場合に、どんなことにお金がかかるか考えさせる</p>	<p>(Q)意見を発表させる</p> <p>・事例①では「どんなこと」にお金がかかるかを発表させ、事例②でより詳しく時間をかけて考えさせる</p>	<p>【生命保険(事例編)】 スライド32</p>																						
	<p>①必要となるお金(事例①)</p> <p>★某の骨折で手術が必要となり、9日入院した事例</p> <p>①必要となるお金</p> <p>かかった医療費 約140万円 その他 約3万円 合計 約143万円</p>	<p>○①必要となるお金(事例①)【WS】穴埋め</p> <p>★必要となる医療費等の金額を提示し、リスクが起きてしまったら一定の金額が必要になることを認識させる</p>		<p>【生命保険(事例編)】 スライド32</p> <table border="1" data-bbox="1283 1077 1520 1256"> <tr><th colspan="2">【事例①】必要となるお金</th></tr> <tr><td>●かかった医療費</td><td></td></tr> <tr><td>入院料</td><td>約34万円</td></tr> <tr><td>手術料</td><td>約72万円</td></tr> <tr><td>リハビリテーション料</td><td>約8万円</td></tr> <tr><td>その他(※)</td><td>約26万円</td></tr> <tr><td>●その他</td><td></td></tr> <tr><td>見舞金の準備の交通費・食費など</td><td>約1万円</td></tr> <tr><td>衣服・日用品など</td><td>約2万円</td></tr> <tr><td>雑費</td><td>約2万円</td></tr> <tr><td>費用を合計すると約143万円</td><td></td></tr> </table>	【事例①】必要となるお金		●かかった医療費		入院料	約34万円	手術料	約72万円	リハビリテーション料	約8万円	その他(※)	約26万円	●その他		見舞金の準備の交通費・食費など	約1万円	衣服・日用品など	約2万円	雑費	約2万円	費用を合計すると約143万円	
【事例①】必要となるお金																										
●かかった医療費																										
入院料	約34万円																									
手術料	約72万円																									
リハビリテーション料	約8万円																									
その他(※)	約26万円																									
●その他																										
見舞金の準備の交通費・食費など	約1万円																									
衣服・日用品など	約2万円																									
雑費	約2万円																									
費用を合計すると約143万円																										
	<p>②入ってくるお金(事例①)</p> <p>②入ってくるお金</p> <p>公的保険(公的医療保険) 約129万円 合計 約129万円</p> <p>ケガや病気入院したときには、国などから受けられる公的保険として、「公的医療保険」があります。</p>	<p>○②入ってくるお金(事例①)【WS】穴埋め</p> <p>★入ってくるお金として「公的医療保険」について説明する。3割負担のほかに、高額療養費制度があることを紹介</p>		<p>【生命保険(事例編)】 スライド33</p> <p>【事例①】入ってくるお金</p> <p>高額療養費制度とは</p> <p>医療費の3割を負担すればよいとしても、長期間入院した場合など、自己負担する金額が高額になることがあります。</p> <p>このような場合、負担が軽減するように「高額療養費制度」があります。</p>																						
	<p>②入ってくるお金(事例①)</p> <p>●公的医療保険(公的保険)</p> <p>事例①の自己負担割合</p> <p>自己負担は3割(小・中学生は半額→7割になるまで)</p> <p>自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」を活用できる</p> <p>事例の場合、受けられる保険は合計約129万円</p>																									
	<p>③自分で準備する必要があるお金(事例①)</p> <p>「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。</p> <p>①必要となるお金 約143万円 ②入ってくるお金 約129万円</p> <p>= ③自分で準備する必要があるお金 約14万円</p>	<p>○③自分で準備する必要があるお金(事例①)【WS】穴埋め</p> <p>★事例①を通じて公的保障と私的保障の補完関係を理解する</p>																								

時間	スライド	内容	備考	参考スライド																																
展開 ② 15分	<p>事例②「もしも亡くなってしまったら」</p> <p>★イラストを使ったアニメーションを通じてリスクが起きてしまった事例について具体的にイメージさせる</p> 	<p>① 考えてみよう【WS】穴埋め</p> <p>★一家の働き手がもしも亡くなってしまった場合に、「何に」「いくら」かかるか考えさせて、必要なお金を準備するにはどのような手段が考えられるか自分の意見をまとめさせる</p> <p>①① 必要となるお金(事例②)【WS】穴埋め</p> <p>★必要となる生活費や教育費等の金額を提示し、リスクが起きてしまったら一定の金額が必要なことを認識させる</p> <p>① 考えてみよう【WS】穴埋め</p> <p>★必要なお金を準備するにはどのような手段が考えられるか自分の意見をまとめさせる</p> <p>①② 入ってくるお金(事例②)【WS】穴埋め</p> <p>★入ってくるお金として「公的年金」について説明する</p>	<p>(Q) 意見を発表させる</p> <p>る</p> <p>(Q) 意見を発表させる</p> <p>る</p>	<p>【生命保険(事例編)】</p> <p>スライド 35・36</p> <table border="1" data-bbox="1284 1041 1524 1220"> <caption>【事例②-1】①必要となるお金</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遺族の生活費</td> <td>長男独立まで 約3,690万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>長男独立後 約5,630万円</td> </tr> <tr> <td>学費</td> <td>長女 約1,090万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>長男 約1,160万円</td> </tr> <tr> <td>結婚資金</td> <td>約180万円</td> </tr> <tr> <td>住宅修繕費用</td> <td>約610万円</td> </tr> <tr> <td>葬儀費用</td> <td>約400万円</td> </tr> <tr> <td>相続費用</td> <td>約100万円</td> </tr> <tr> <td>予備費用</td> <td>約300万円</td> </tr> <tr> <td>費用を合計すると約1億3,160万円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  <p>【生命保険(事例編)】</p> <p>スライド 37</p> <table border="1" data-bbox="1284 1556 1524 1736"> <caption>【事例②-1】②入ってくるお金</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公的保障(遺族年金)</td> <td>約6,260万円</td> </tr> <tr> <td>企業保障</td> <td>約400万円</td> </tr> <tr> <td>妻の収入</td> <td>約2,340万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約9,000万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>国などから受けられる公的保障として公的年金には、「遺族年金」があります。</p>	項目	金額	遺族の生活費	長男独立まで 約3,690万円		長男独立後 約5,630万円	学費	長女 約1,090万円		長男 約1,160万円	結婚資金	約180万円	住宅修繕費用	約610万円	葬儀費用	約400万円	相続費用	約100万円	予備費用	約300万円	費用を合計すると約1億3,160万円		項目	金額	公的保障(遺族年金)	約6,260万円	企業保障	約400万円	妻の収入	約2,340万円	合計	約9,000万円
項目	金額																																			
遺族の生活費	長男独立まで 約3,690万円																																			
	長男独立後 約5,630万円																																			
学費	長女 約1,090万円																																			
	長男 約1,160万円																																			
結婚資金	約180万円																																			
住宅修繕費用	約610万円																																			
葬儀費用	約400万円																																			
相続費用	約100万円																																			
予備費用	約300万円																																			
費用を合計すると約1億3,160万円																																				
項目	金額																																			
公的保障(遺族年金)	約6,260万円																																			
企業保障	約400万円																																			
妻の収入	約2,340万円																																			
合計	約9,000万円																																			

時間	スライド	内容	備考	参考スライド
		<p>○③自分で準備する必要があるお金(事例②) 【WS】穴埋め ★事例②を通じて公的保障と私的保障の補完関係を理解する</p> <p>○リスクに備える3つの保障 ★リスクに対して3つの保障があることを再度確認する ★私的保障の代表的なものに預貯金と民間保険があることを再度確認する ★★公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補完することを伝える</p>		
展開 ③ 10分		<p>3. 自分で準備する「私的保障」 ○預貯金と民間保険①【WS】 ★預貯金と民間保険のしくみを理解する</p> <p>○預貯金と民間保険②③【WS】穴埋め ★預貯金と民間保険の性質の違い、それぞれのメリット、デメリットについて説明する ★★預貯金と民間保険どちらがよいか、ではなくそれぞれの特徴を押さえた使い分けが大事であることを認識させる</p> <p>○保険のしくみ①② ★保険のしくみについて単純化した例で説明する</p>	<p>・民間保険とは、保険会社に保険料を支払うことで、リスクが起きたときに保険金を受け取れる契約である</p> <p>・ヨコ軸に時間をとり、タテ軸に万一の時に使える金額を示している</p>	
<p><ストーリー・スクリプト></p> <ul style="list-style-type: none"> 100人の部員がいるサッカーチームがある 毎年5人の部員が骨折すると仮定する 対策をしてもケガは減らない 治療には費用がひとり1万円かかる <p>(次スライド)</p>				

時間	スライド	内容	備考	参考スライド												
	<p><ストーリー・スクリプト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこである部員が思いついた 「全員であらかじめ治療にかかる費用を準備しておけばよいのでは」 ・治療に係る費用はチーム全体で 1 万円× 5 人=5 万円 ・5 万円を 100 人で準備すればよいので、5 万円÷100 人=1 人あたり年間 500 円 ・骨折した生徒は 1 万円を受け取り、治療費にあてることができる  <p>保険のしくみ②</p> <p>全員で治療にかかる費用を準備すればよいのでは？</p> <p>治療にかかる費用は全員分 10,000円 × 5人 → 50,000円</p> <p>50,000円 ÷ 100人 → 1人あたり年間 500円</p> <p>骨折した生徒は 10,000円を受け取り、治療費にあてる</p>	<p>○保険のしくみ③</p> <p>★単純化した例を、一つの図で示し、理解を深める</p> <p>○生命保険と損害保険【WS】穴埋め</p> <p>★民間保険には「生命保険」と「損害保険」があり、それぞれの違いについて説明</p> <p>○状況に応じたリスクマネジメント</p> <p>★★★家族構成や年齢などによって必要な保障が異なるため、状況に応じてリスクへの備えを考える必要があることを説明する</p>  <p>保険のしくみ③</p> <p>ケガに備えるために……</p> <p>それぞれが出し合う費用 500 × 10人 = 5,000円</p> <p>骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、治療費を支払える</p>  <p>生命保険と損害保険</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>生命保険</th> <th>損害保険</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目的</td> <td>あらかじめ定めた金額</td> <td>事故により発生した損害額</td> </tr> <tr> <td>契約形態</td> <td>(定期契約)</td> <td>(契約の種類)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>●死亡 ●病気・ケガ ●老後 ●介護</td> <td>●火災 ●盗難 ●自然 ●地震 ●台風</td> </tr> </tbody> </table>  <p>状況に応じたリスクマネジメント</p> <p>家族構成や年齢などによって、身の回りには異なるリスクがあります。状況に応じてリスクへの備えを考えよう。</p>	対象	生命保険	損害保険	目的	あらかじめ定めた金額	事故により発生した損害額	契約形態	(定期契約)	(契約の種類)		●死亡 ●病気・ケガ ●老後 ●介護	●火災 ●盗難 ●自然 ●地震 ●台風	<p>・全員が少しの負担でリスクに備えることができる</p>	<p>【生命保険(生活設計編)】スライド 10・11</p>  <p>生活設計と生命保険</p>  <p>ライフステージによる必要な保障の違い</p> <p>家族の状況の変化に応じて、必要な保障の種類が異なります。</p>
対象	生命保険	損害保険														
目的	あらかじめ定めた金額	事故により発生した損害額														
契約形態	(定期契約)	(契約の種類)														
	●死亡 ●病気・ケガ ●老後 ●介護	●火災 ●盗難 ●自然 ●地震 ●台風														
まとめ 5分	<p>まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。 ②公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補う。 ③預貯金と民間保険にはそれぞれ特徴があり、使い分けが必要がある。 ④家族構成や年齢などによって、身の回りには異なるリスクがある。状況に応じてリスクへの備えを考えよう。 	<p>4. まとめ</p> <p>○まとめ</p> <p>★学んだ内容のポイントをふりかえる</p> <p>【WS】●今日学んだことや気づいたことについて書いてみよう</p> <p>★WSに穴埋めした内容などを振り返りながら今日の授業で学んだことを考えさせる</p> <p>※グループで考えても良い</p> <p>※問いかけの内容についてはアレンジ可能例)・「今日学んだことはこれからの自分の人生にどう生かせるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にとって一番備えなければいけないリスクは何だと思えるか」 														

6. 本教材における高等学校家庭科学習指導要領との対応

- ・生活設計の取扱いについて、まとめとしてだけでなく、科目の導入と位置付けること、学ぶ内容と関連付けることとなった。
- ・「将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについても触れること」について、解説での記載から、学習指導要領本体への記載へと変わった。

※解説では、リスクへの対応として「預貯金、民間保険」等の資産形成の視点にも触れるようにすることとなっている。

改訂版

平成30年3月告示 高等学校家庭科学習指導要領「家庭基礎」

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

- (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉

(5) 共生社会と福祉

ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。

イ 家庭や地域及び社会の一員として自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。

【3 内容の取扱い (1) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。】

ウ (5) については自助、共助及び公助の重要性について理解できるよう指導を工夫すること。

【学習指導要領解説 家庭編】

社会的制度、社会福祉の基本的な概念、共に支え合って生きる社会の考え方について理解できるようにする。・・・
自立的な生活と、家族や学校、地域の人の支え合いなどの身近な環境、また国や自治体などの制度やサービスなどの制度としての支援体制という支え合いの構造について理解する。加えて、自助・共助及び公助の概念だけでなく、互助も含めたつながりについて理解できるようにする。

B 衣食住の生活と自立設計

- (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 (3) 住生活と住環境

C 持続可能な消費生活・環境

(1) 生活における経済の計画

ア 家計の構造や生活における経済と社会の関わり、家計管理について理解すること。

イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること。

【3 内容の取扱い (2) 内容の範囲や程度について】

ウ Cの(1)のイについては、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについても触れること。

【学習指導要領解説 家庭編】

家計管理については、・・・事故や病気、失業などへリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット、デメリット)、資産形成の視点にも触れるようにする。生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性については、・・・また、将来を見通して、事故や病気、失業、災害などの不可避的なリスクや、年金生活へのリスクに備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察できるようにする。

- (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

□監修

大藪 千穂 教授（岐阜大学教育学部）

□2026年度版編集協力（50音順）（所属は2026年3月時点）

秋田 一早 先生（大阪府教育センター附属高等学校）	小鍵 純子 先生（園田学園高等学校）
池垣 陽子 先生（埼玉県立蓮田松韻高等学校）	谷 昌之 先生（大阪府立天王寺高等学校）
石坂 美樹 先生（青山学院高等部）	竝川 幸子 先生（京都府立洛北高等学校）
岩澤 未奈 先生（東京都立狛江高等学校）	新村 恭子 先生（東京都立葛西南高等学校）
内田 文子 先生（東京都立国立高等学校）	三野 直子 先生（東京都立竹早高等学校）
川邊 綾子 先生（海城中学高等学校）	